資料３

照葉小中学校における
小中連携教育の取り組み

照葉小中学校の概要

【所在地】東区香椎照葉二丁目２番１号

【開　校】小学校：平成19年４月１日，中学校：平成20年４月１日

【敷　地】40,000㎡

【児童生徒数及び学級数】　（平成20年５月１日現在）

小学校：270名　９学級　　中学校：56名　３学級

→ 福岡市初の「施設一体型小中連携校」

小中連携教育の背景

義務教育の課題

- ■ 中学から急に難しくなる教科内容や英語教育などへの学習への不安
- ■ 学習指導や生徒指導の違いによる不安
- ■ 先輩･後輩や先生などの人間関係に対する不安
- ■ 小中学校の学校文化の違い(教員の学力観･指導観の違い)

■ 不登校の増加や学習意欲の低下 ［いわゆる「中１ギャップ」の問題］

連携教育のねらい

- ● 義務教育９ヵ年を見通した教育活動の充実
- ● 小学校から中学校への滑らかな移行
- ● 児童生徒の交流による，よりよい人間関係の形成

教育活動の特徴

小学校						中学校		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年

9カ年を通した教育内容
～小中学校の教職員が連携して，教育課程を編成。

中学校の専門性を活かした教材の共同研究，小学校の教員による部活動の指導　など

学級担任制 → **教科担任制**

小学校の教員が専門の教科を指導（教科担任制）。

一部の教科（音楽，図工，体育）で中学校の教員が指導。

学級担任制から教科担任制への円滑な移行

小中学生の交流活動
～休み時間，ランチルーム給食，学校行事，児童会・生徒会活動，小中学校と地域の合同運動会

施　設　の　特　徴

◆ 児童生徒や教職員の交流を意図した配置

・職員室，ランチルーム，図書館等を共用

・子どもの交流の場となるラウンジやベンチの設置

◆ 地域に開かれた学校

・全ての特別教室，体育館，プール，ランチルーム等を地域に開放する予定

・地域コミュニティ支援のための地域連携室を設置

施設一体型小中連携校のメリット①

小学生の視点

○成長へのあこがれや，中学校生活への期待を持つことができる。

○中学校進学への不安を解消することができる。

中学生の視点

○成長に対する自覚と責任感を持つことができる。

○中学校進学後も，小学生時の先生が照葉小に在籍していることで，安心感を得ることができる。

施設一体型小中連携校のメリット②

教職員の視点

○ 児童生徒の学力を9か年を通して追跡調査し，学力向上のための対策を講じることができる。

○ 小中学校の教職員が互いの指導を参考にするなど，交流が進むことで，指導力の向上や教育観の共有化を図ることができる。

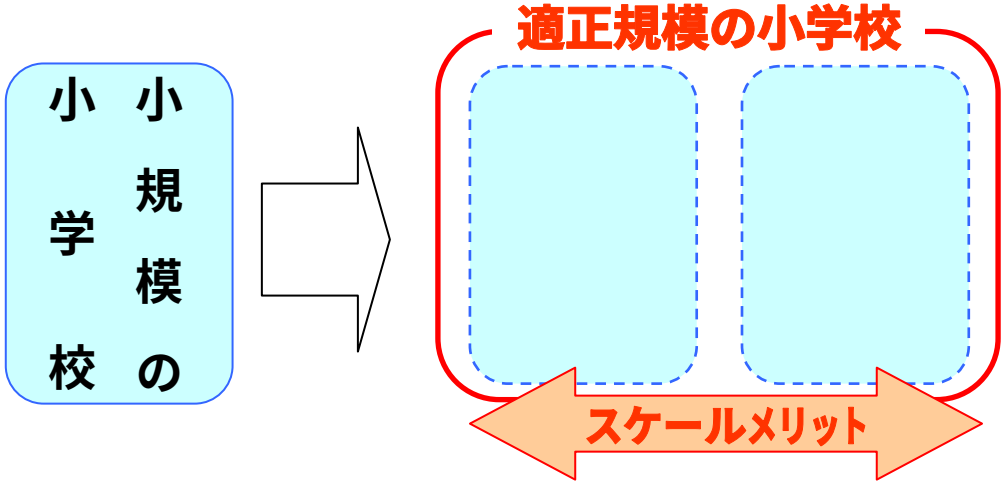
地域の視点

○ 学校施設の開放により，地域活動の充実を図ることができる。

○ 児童生徒の地域環境保全運動などの9カ年を通した取り組みによって，地域活動の担い手を育成することができる。

施設一体型小中連携校のメリット③

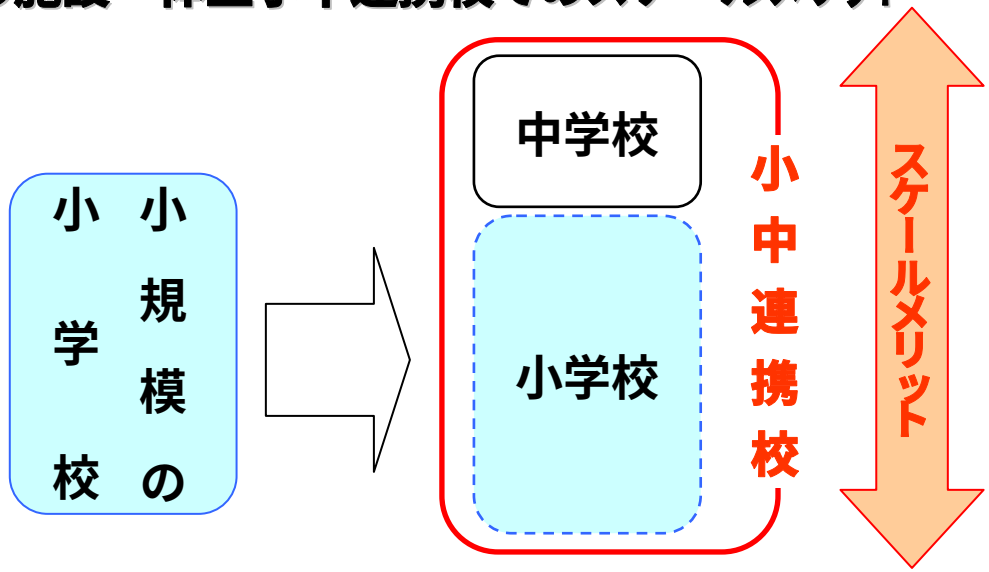
○一般的に言われる，小規模校統合のスケールメリット



◆児童生徒数の増加

◆教職員数の増加

○施設一体型小中連携校でのスケールメリット



◆児童生徒の交流機会の増加

→**実質的な児童生徒数の増加**

◆教職員の連携の強化

→**実質的な教職員数の増加**

施設一体型小中連携校のメリット④

○ 照葉小中学校でケーススタディしてみると

照葉小学校
〔児童〕270名
〔学級〕９学級
〔教職員〕16名

照葉中学校
〔生徒〕56名
〔学級〕3学級
〔教職員〕10名

照葉小中学校
〔児童生徒〕326名
〔学級〕 12学級
〔教職員〕 26名

26名の教職員を配置するには･･･

小学校単独の場合：18学級
または
中学校単独の場合：14学級
の学校規模が必要

小学校が９学級，中学校が３学級の規模でも，小中連携校とすることで，
適正規模の学校と同等の教員数を確保することが可能となる。